

2023年10月16日

立教大学国際学術研究交流制度  
2023年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	異文化コミュニケーション学部・教授
氏名	イ ヒャンジン
派遣機関名	Department of Korean Studies, Graduate School of International Studies, Ewha Womans University 所在国：韓国
研究テーマ	韓国社会における金子文子の植民地朝鮮の記憶
派遣期間	2023年8月15日～2023年9月14日（31日間）
研究経費	548,300円

2. 派遣期間中の活動

離日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例) ○○に関する調査、○○氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2023年8月15日	出国
2023年8月16日 ～2023年8月17日	● 韓国映像資料院訪問：日本人の朝鮮への移住と住居地域に関する映像記録調査と資料観覧
2023年8月18日 ～2023年8月23日	● 日帝朝鮮植民地支配時代—金子文子研究の歴史的背景—の日本人移住地域の現地調査。全羅南道のグレ、麗水、木浦、光州などの植民地時代の産業中心地と歴史博物館の訪問。 学術交流：ベルリン自由大学の李ウンジョン教授、歴史研究所の李シンチョル教授、全南大学 5.18 研究所の金オルトン氏など。
2023年8月24日	● 韓国映画振興委員長のパク・キヨン監督との面談
2023年8月25日	● ソウル女性国際映画祭開幕式参加と交流、インタビュー
2023年8月26日 ～2023年9月6日	● 延世大学校・梨花女子大学校・北朝鮮大学大学院・韓国映像資料院での資料調査と学術交流、映画研究関連イベントへの参加と交流 延世大学大学院：ユン・テジン教授、カン・スンヘ教授、 梨花大学大学院：キム・ヨンフン教授、キム・ウンミ教授 北朝鮮大学大学院：イ・ウヨン教授、キム・ソンキョン教授
2023年9月7日	● 韓国文学翻訳院への訪問と面談

2023年9月8日 ~2023年9月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像資料院での資料調査と映画研究関連イベントへの参加と交流 イ・ジョンヒョン監督、キム・ホンジュン監督（韓国映像資料院院長）、ジョン・ジョン監督、ジョン・サンジン代表（DMZ国際ドキュメンタリー映画祭）などを面談。</li> </ul>
2023年9月11日 ~2023年9月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>世宗市の金子文子遺跡地と朴烈の故郷であり、彼女の墓がある慶尚北道聞慶市素材展示館や博物館の現地調査・日本人居住地域、富江小学校、金剛、祖母の家、など朝鮮での7年間の生活空間を踏査。</li> </ul>
2023年9月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソウル大学日本研究所への訪問、ドキュメンタリー制作のためのインタビュー（ガボ・セボ氏）、アジア研究所のホン・ソックヨン教授（韓流センター所長）との面談</li> </ul>
2023年9月14日	帰国

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

#### 研究・交流の内容および成果

本派遣研究では、日本帝国主義時代のアナキスト金子文子（1903-1926）の獄中手記「何が私をこうさせたか」に描かれている植民地朝鮮体験を現代韓国社会の観点から経験的に考察することを目的とした。無籍で教育も受けられず、厳しい生活環境で育った彼女は宗主国の移民として朝鮮に渡り、被植民地社会である朝鮮の農民たちの日常生活を体験した。本研究では日本帝国主義植民地支配下の朝鮮における金子文子の経験をジェンダーと人種を越える脱境界的な歴史的記憶として取り上げるために現地調査と学術交流を企画した。研究の主な内容は、金子文子が幼年時代を過ごした植民地朝鮮での体験、東京で出会った朝鮮人アナキスト朴烈との恋愛と獄中結婚、二人の同志意識と連帯闘争、そして、朴烈の家族が彼女の遺骨を朝鮮の家族墓に持って行き、安置するまでの過程を描いた映画や他のジャンルの創作物と歴史的な記録を収集し、日本植民地時代を巡る歴史的記憶を新たなフェミニズム的、そして、トランスナショナルな解釈が受け入れられていることについて考察することにあつた。これにより、本派遣研究では超国家的でありフェミニズム的な人生を生きさせた彼女のために、男性中心的な民族主義観点で構成される伝統的な家父長的歴史認識に対抗する代替案となる歴史的記憶の構成方式の可能性を批判的に探究した。

同上の目的に基づき、本研究者は、2023年8月15日から9月14日までの派遣研究期間中に金子文子が住んでいた韓国忠清北道清原郡芙蓉面の現地調査と当時の日本人部落に関する記録と痕跡、金子文子が通っていた小学校とそこに設けられた歴史資料室、そして、朴烈の故郷であり、彼女の墓がある慶尚北道聞慶市素材展示館や博物館を見学し、地域社会が収集した資料を調査した。また、イ・ジュンイクの映画『金子文子と朴烈』（2017）をはじめとし、朴烈との熱愛と獄中結婚を扱った小説やエッセイ、ドキュメンタリー番組と時事番組などのメディアにおける金子文子の植民地朝鮮の記憶を収集して分析し、関連研究者へのインタビューも行った。

金子文子は、植民地宗主国の国民でありながら被支配国出身の疎外された人々の側に立って、国家権力の暴力性に抵抗した。また、彼女の弁護を引き受けた布施辰治（1880-1953）も、彼女の抵抗行為が疎外された階級と下層民、民族差別を受ける朝鮮人たちを助けようとした行為であると主張している。金子文子の生涯を貫くこれらの社会的抵抗意識は彼女の獄中手記「何が私をこうさせたか」によく表れている。つまり、彼女の朝鮮体験は、アジア周辺国の帝国主義的領土侵略後、被植民地域に広がって再配置された日本人たちの集落生活の体験、植民地統治下の朝鮮

人たちの日常、そして、1919年の三・一朝鮮独立運動を目撃することになる自省的な社会的批判意識を含んでいる。これらの植民地朝鮮での体験は、彼女が成長し持つようになる反国家的、反資本主義的なアナキスト政治思想の形成に大きな影響を及ぼしたとみなされている（山田昭次、1996）。併せて、植民地宗主国出身である女性と被植民地出身の男性との自由な恋愛、同居、結婚に至る過程は、民族差別や階級区分を否定し、家父長的社会秩序が要求する女性の受動性や性的抑圧を拒否した、男女間の同志的関係を主導的に導く主体的であり独立的な女性像をよく示している。さらに金子文子は関東大震災が起きた1923年には、朴烈と不逞社というアナキスト団体を組織して、機関紙を発表し、天皇を暗殺しようとした疑いで、政治的扇動家・思想家としていわゆる「大逆罪」で逮捕された。死刑から無期懲役に減刑された獄中生活の中、死を準備して書いた彼女の手記は当代の社会活動家が共有したような時代精神と民族的境界を越えた政治的抵抗をよく代弁していると考えられる。

#### 今後の研究の展望

本派遣研究の一次的成果は、2023年11月1日から4日までに香港リンナン大学で開催される「コリアンシネマのルネッサンス」というタイトルの国際学会で『金子文子と朴烈』の監督であるイ・ジュンイク監督の作品傾向とジャンルの特性を代表的な現代韓国映画の作家主義作家の一人として取り上げて発表する予定である。そして年末からは現在企画中の日韓歴史と在日の映像表象に関する単行本の一章として執筆する予定である。単行本の原稿は2023年10月の時点で、全6章のうち、4章分の初稿が完成している。

#### 本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望

本校と派遣機関である梨花女子大学は長い学術交流関係を持っているが、現在では間欠的に立教大学の研究者が派遣されるに留まっている。本研究者は近年まで派遣大学である梨花女子大学が発刊する学術ジャーナル『韓国文化研究』の編集委員として活動し、着実な学術交流を行ってきた。そして、その長期的学術交流関係を拡大するため、本校と派遣機関との共同研究テーマを発議し、2024年、または2025年にトランスナショナル日韓文化研究のための国際学術会議を企画することを目標とし、具体的な時期と内容に関する議論を続けている。

#### 【活動中の写真】

2023年8月15日 韓国映像資料院



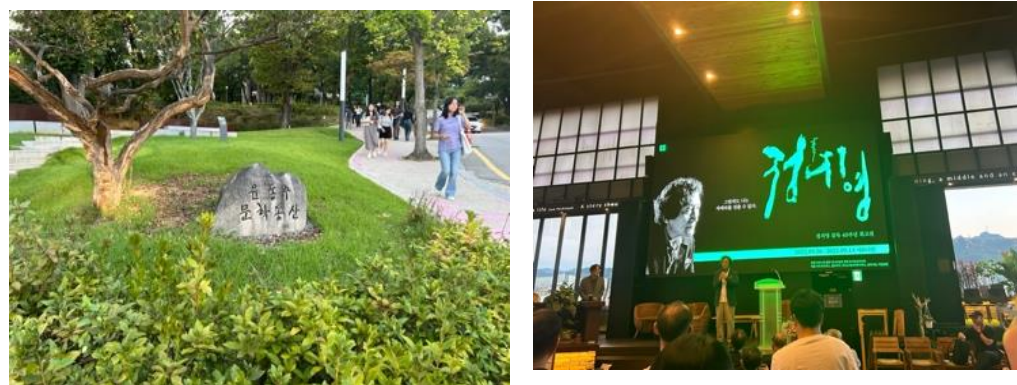
2023年8月18日～2023年8月23日 植民地時代の産業中心地と歴史博物館



2023年8月24日 ソウル女性国際映画祭



2023年8月25日～2023年9月6日  
延世大学校・梨花女子大学校・北朝鮮大学大学院・韓国映像資料院



2023年9月8日～2023年9月10日 映像資料院



2023年9月11日～2023年9月12日 慶尚北道聞慶市素材展示館や博物館等現地調査

